

## インド児童労働の予防・リハビリ最前線 ～ACE スタディツアー報告～

12月12日(火)、会員団体である(特活)ACEとの共催により第14回学習会を開催しました。今回は、ACEが9月に実施したインドへのスタディツアーの報告を行い、インドで実際に行われている児童労働の予防とリハビリについて学びました。児童労働から救出された子どもたちが社会復帰を目指して暮らすアシュラム(施設)での子どもたちとの交流、農村で児童労働をなくすための「子どもにやさしい村づくり」に取り組む子どもたちや住民が語ったこと、実際に農村で起きている変化などが報告されました。

### インドにおける児童労働の現状

10億2702万人の世界第2位の人口を誇るインド共和国。しかし、その35%が1日1ドル以下で暮らしている。インド政府(2001年)によると児童労働者は約1260万人とされているが、NGOの調査では約6000万人とも言われている。政府は国内の児童労働問題へは自国の法律で対応できるとし、ILOの138号条約(最低年齢条約)と182号条約(最悪の形態の児童労働条約)はいずれも批准していない。インド国憲法には、14歳未満の児童の雇用の禁止(24条)や義務教育(45条)などが定められており、1986年に成立した児童労働禁止法は2006年10月に改正され、家事労働やホテル・レストランでの労働も禁止項目に追加された。教育分野では、14歳までの子どもに義務教育を無償で普及する取り組みも行われている。しかし、都市と農村の格差、男女格差、カースト間格差なども存在し、教育環境の面ではアクセス、学校施設、教員などの問題が山積している状況である。

### BBA/SACCSとその活動

ACEのパートナー団体であるインドのNGO、Bachpan Bachao Andolan(英訳: Save the Childhood Movement)は、1980年に設立された。代表は、2006年6月のキャンペーンに來日したカイラシュ・サティアルティ氏で、1989年にはSouth Asia Coalition on Child Servitude(南アジア子ども奴隷解放連盟)を設立し、南アジア地域を取り込んだ運動の拡大を進めてきた、インド国内でも大規模なNGOである。連帯を通じた児童労働の廃絶を目指した運動を行っている。過去25年間で7万5千人の子どもを救出したほか、雇用主に向けあって50万人の児童労働者を学校に入れてきた。

**BBAの活動を表す「4つのP」** PREVENTION(予防): 法整備、子どもにやさしい村プロジェクト、社会意識の向上

- PROTECTION(保護): 直接介入、救出活動
- PROVISION(対策) リハビリテーション、社会復帰支援
- PARTICIPATION(参加): 子どもの参加(子どもにやさしい村) あらゆる関係者、住民の参加

### バル・アシュラムでのリハビリテーション

バル・アシュラムは、子どものリハビリのための施設とBBAの訓練施設を兼ねて、1998年にラジャスタン州に設立された。子どもたちは半年間アシュラムで生活し教育や訓練を受けた後に、村に帰って公立の学校に編入する。18歳を超えていれば仕事に就く。家庭の事情等で村に帰れない子どもたちは、アシュラムに残って周辺の公立学校へ通学する。

子どもたちは朝5時半に起床し、夜10時に就寝するまで決められたプログラムに合わせて生活することで、規則正しい生活を身につけていく。教育や訓練プログラムを通じて基本的な読み書き計算や道徳などを学ぶほか、運動、遊び、歌や踊りなどの文化活動を通じて心身の健康や尊厳を取り戻してい



ACE スタディツアー参加メンバー

る。アシュラム内の掃除や植物の世話、食事の用意などは当番制で子どもたち自身が役割を担っている。

2006年9月時点では、20名のスタッフと66名の子どもたちがバル・アシュラムで生活していた。子ども1人が半年間アシュラムに滞在するためにかかる費用は約15,000ルピー(約37,500円)。費用は国内外からの寄付、財団からの助成金などによりまかなっている。BBAは、デリー郊外でも、女子と男子専用のアシュラムをひとつずつ運営している。

### アシュラムでの子どもへのインタビュー

#### バドラム・クマール君(13歳、アンドラ・プラデシュ州出身)



- ・ バル・アシュラムに来て1年半
- ・ 家族構成: 父、5人の兄弟、母親は9才のとき死亡
- ・ 父親に言われて、お菓子を作る仕事をしていた
- ・ 働かないとオーナーに殴られた
- ・ 村の場所が分からず、兄弟の消息も知らない
- ・ 母語はテルグ語だったがヒンディー語での生活が長くなり忘れてしまった
- ・ 父親にいつか会いたい

「アシュラムに来てからは、遊べて、学校に行けて勉強ができるようになって嬉しい。英語と数学が好き。将来は法律家になって、児童労働に反対して、貧しい人を助けたい。」

#### ムハマド・サムスール君(13歳、ラジャスタン州出身)



- ・ 家族構成: 両親と5人の兄弟
- ・ 父親はチャイ(紅茶)屋をしながら、ゴミ収集・販売をしている
- ・ 10歳のとき、小学校を辞めてゴミ拾いを始めた
- ・ タバコや噛みタバコをしていた
- ・ 12歳のときBBAのスタッフが父親を説得し、アシュラムで暮らし始める
- ・ アシュラムでは絵と演劇を学んでいる

「子どもは働くべきではない。自分のような経験をする子どもが増えないようにしたいという気持ちで役を演じています。将来は絵描きになることが夢。」

## 「子どもにやさしい村」プロジェクト

ACE が支援している「子どもにやさしい村」プロジェクト (BMG: ヒンディー語 Bal Mitra Gram) は、農村で児童労働がなくなり全ての子どもたちが学校で学べるようにと、BBA が 2000 年から各地で行っている取り組みである。ACE は 2002 年から現在までウツタル・プラデシュ州の 5 つの村を支援してきた。

スタディツアーで訪れたガンゴール村では、2005 年 5 月からの 1 年間に一連の活動が実施され、学校に行かずに働いていた 83 人の子どもが新たに学校に通うようになるなど、様々な成果が上がっていた。住民の児童労働に対する意識が高まり、学校に通っていない子どもを見つけた時には説得するようになった。小学校では、教員が 4 人増員され、教室も 1 つ増設された。また、子ども村議会が設立され、月に 1 度子どもの集会を開き、意見をまとめている。これを大人の村議会と一緒に話し合い、村の開発の問題として取り組んでいる。このような活動の結果、村は州の開発計画の対象地にも選ばれ、インフラ整備も進み、道路の舗装や下水の整備が進められている。新たにコミュニティーセンターと情報センターも建設され、議会の集会に使われている。

BMG の特徴は、既存の民主的な仕組み、村の人たちが持っている資源、行政の支援や制度を活用すること、村民のエンパワメントを通じ自ら問題解決へと導くこと、資金ではなく情報やノウハウを提供することである。子ども村議員たちに話を聞くと、「活動を通して、村のために自分が役に立っている」ということで自信がついた。将来は村に高校と大学、そしてスポーツのできるスタジアムをつくりたい。」と話していた。

### 【参加者の声】

- ・「子どもにやさしい村」の目標は、子どもたちにも活動の場を与え、自信を湧かせる画期的なものである。(40代、女性)
- ・エンパワメントの意味が初めて理解できた気がした。(20代、男性)
- ・現地に行かれた方のお話は興味深く、自分も訪れたいという強い気持ちになりました。(20代、女性)
- ・BMG は村にある児童労働をなくしたいという人々の気持ちを、一押ししてあげるプログラムなのですね。(30代、男性)

### 「子どもにやさしい村」のプロセス

1. 対象となる村の選定
2. 村議会、村長、地域委員会との調整
3. 村落調査
4. 子どもを労働から解放し、学校に通えるようにする
5. 子ども村議会の設立
6. BMG 諮問委員会、作業委員会の設置
7. 能力強化のためのトレーニング、ワークショップ
8. 作業委員会への BMG 活動の引渡し

### < 質疑応答 >

- Q. BMG を実施する村の選定方法はどのようにしているのか。
- A. 児童労働の数、就学児童の数、低カースト層の人口など、公式な統計を元に状況の悪い村を選んでいる。
- Q. BMG のアクティビストはどのように選ぶのか。
- プロジェクトを実施する村もしくは周辺地域に住んでいる住民の中から、子どもの教育に熱心で活動を担ってくれるような人を選び出し訓練をしている。
- Q. 児童労働をやめさせることによって欠ける家計のケアはどうしているのか。
- A. 行政が提供する貧困家庭や母子家庭などに対するサービス(補助金)が受けられるように支援したり、女性や男性の自助グループを作って共同で事業を起こせるように支援するなどの対策をとっている。児童労働している子どもの家庭の親がしっかりと働けるようになり、収入源を得ることがまずは大事である。そのため、子どもの教育費を捻出するために母親が働き始めたりなどの変化も起きている。

### 特定非営利活動法人 ACE

1998 年に世界 107 カ国で実施された「児童労働に反対するグローバルマーチ」を日本で行うことをきっかけに、1997 年に設立された NGO。「知らせる」「つなげる」「働きかける」「機会を提供する」ことにより、児童労働のない「子どもが笑顔でいられる社会」を実現することを目指している。2002 年より、インドの NGO、BBA/SACCS との連携により、インドの「子どもにやさしい村」づくり支援を行っている。

## 児童労働ネットワーク第 15 回学習会のご案内

### テーマ「米国 NGO・政府の児童労働へのアプローチ」

日時：2007 年 2 月 20 日(火) 19:15~20:45

会場：JICA 地球ひろば セミナールーム 202

スピーカー：岩附 由香(特定非営利活動法人 ACE 代表、児童労働ネットワーク運営委員)

参加費：一般 500 円(児童労働ネットワークの会員は無料です)

申込み：お名前、ご所属、ご連絡先(ご住所、お電話、メールアドレス)、開催を知った媒体、会員/非会員/入会希望を明記の上、2 月 16 日(金)までに seminar@cl-net.org まで申し込みください。

## 児童労働ネットワーク(CL-Net)は会員を募集中です！！

会員になると、会員のメーリングリストや学習会、運営会(オブザーバー参加)に参加することができます。

### 会員になるには？

会費を郵便振替にてお振込みください。  
事務局からご連絡させていただきます。

郵便振替口座：00160-8-685281

口座名義：児童労働ネットワーク

### 会員の種別と会費(会費期限は毎年 9 月~8 月)

正会員 (総会での議決権あり)	団体	一口 5000 円(一口以上)
	個人	一口 5000 円(一口以上)
協力会員 (総会での議決権なし)	団体	一口 1000 円(一口以上)
	個人	一口 1000 円(一口以上)

(振替用紙の通信欄には、必ず会員の種別と口数を記入してください)

この短信は児童労働ネットワークのイベントにご参加いただいたみなさま、またネットワークの会員団体とつながりのある皆様にお送りしています。送付先の変更や送付不用の場合は事務局までご連絡ください。

児童労働ネットワーク(CL-Net)事務局 〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F (特活)ACE 内  
TEL/FAX 03-3835-7555 E-mail: info@cl-net.org URL: http://www.cl-net.org (メールアドレスと URL が変わりました！)